

月報

岡崎の教育

12月号

曾て炭鑛に従ひ

機輪をふたたびす

六十星霜 風雨頻なり

笑へ 我生来の頑拙士なるを

残軀祇合して

天真を楽しまん

橋本増治郎伝より

昭和50年12月1日

編集・発行

岡崎市教育委員会

印刷

研文印刷社



(おしくらまんじゅうおされてなくなー六ツ美中部小)



家庭教育と学校教育

服部敏郎

いつの時代でも「今の若い者は……：」という言葉が繰り返され、「お前達は、お父さんの子供の頃よりずっと幸せだよ」と言われているが、昨今はこれまでのどんな時代にも増してこの感が強く、また反面、今の子供達は大変厳しい時代を生きななければならない点で可哀そうな気もする。

戦後三十年、わが国はエコノミックアニマルと評されたように精神面を置き忘れて経済面のみが極めて急速な成長をみるに至り、人と人との触れ合いの少ないざすぎすした複雑な世の中となった。

その結果そこで行われる教育は、家庭においては勿論、学校においても極めて難しくなっていることは否めないと思う。

なかでも家庭における子女の教育は、昔に比べて、不足勝ちな気がする。というのも、父親は、この多忙で複雑な世の中で家庭を顧みる余裕を失い、一方、母親は、家事の時間が短縮されたものの、家庭から外に目を向ける機会がふえ、子供と一緒に過ごす時間が少なくなってしまうためではないだろうか。

さらに、核家族化が進み、祖父母等との日常の接触が少なくなり、かつては日

常生活から得ていた生活の知恵といったものも体得する機会も少なく、いわゆる家庭教育の重要性が忘れられているのではないかと思う。

やはり、教育というものは、学校におけるものと家庭におけるもの（しつけ）が両方相まってバランスのとれた、完璧なものとなると思う。

同様に私共の職場でも、業務上の知識の習得のための教育（実務教育）のみでなく、機会あるごとに社会人として職業人としての教育（精神教育）をも実施し、職場のレベルアップと職員一人一人の能力開発、人格の陶冶につとめておりこれが結果的には各人の将来の幸せに必要なことと考えている。

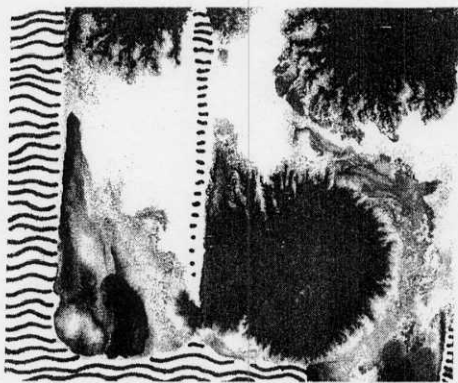
昨今は塾が大はやりで親達が自分の子女の教育を学校や塾の先生に任せ切っている様子を見聞するにつけ、親達の学校や先生に対する期待の大きき、理解の少なき、家庭教育に対する自信のなきを強く感じる。

このように、日常生活における家庭教育（しつけ）の不十分な子供を預かって学校で一人前に育ててくださる先生方のご苦労は並大抵なことではないと常々深

い敬意の念を抱いている。

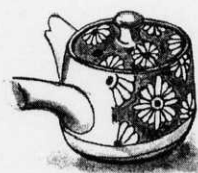
ともあれ、「良く学び、良く遊べ」という言葉を今一度思い起こし、厳しさの中にも深い愛情のこもった教育、集団の中での個性を見出す教育、時代に合った考へ方にもとづいた教育、家庭においては家庭でなければできない教育が、先生と親と子との三者の信頼関係のうえに強く推し進められるよう切に望んでいる。

（岡崎信用金庫会長）



日直・宿直

いまはむかし



●かせぎ

宿直と書かれた三角錐が回る。「もう」という先輩。今夜は様ぐか、という新任。以後、三角錐は、先輩の「申し訳ない」という言葉で独身者の机の上に納まる。常直への歩みが始まっていた。

校達員の手料理を平らげた後、ノートやテストに目を通す。テレビのない時代の宿直は、仕事がかどった。「なかま」「大樹」などの文集が生まれたのも、こんな時であったという。

暮れと正月には、特別手当がつく。多くの場合、先輩のよろしき指導を受け、独り者の代行となる。四日通しの泊りは無事済ませ、勇んで帰ると「今日は家へ宿直に来たのか」の声で迎えられた。

●氣づかい

慌しく造られた中学校の校舎。米松が、夜中にビシイと軋む音に驚かされた。

教室の中から外の見回り。懐中電灯を大きく振り振り、アベックの吸うタバコに気を揉みながら回る。風呂のある学校は少なかった。ずっと昔には、公衆浴場を素通りし、三谷温泉行きの通もいたという。学校の初風呂は、ありがたくも、辛

緑はいのちの母



ふるさとの自然——岡崎の名木

万物の根源である土と太陽から生命をつくり出すもの……それは緑である。一昨年度、市内の理科の先生方のご協力を得て、全市的な規模で自然環境保全調査をおこなった。その結果、わたしたちの祖先から大切に守り育てられ、長い風雪に耐えてきた貴重な名木が、知らぬ間に姿を消していることがわかった。調査対象になった樹木は約三千本、このうち特に貴重な百本を選び、郷土の名木として、立札を立て、市民への樹木保護を呼びかけることになった。

名木としてよく知られているものの中には、土呂陣屋の松、白山神社の大楠をはじめ十三株が天然記念物として指定されており、また土地の人たちによって特別な呼び名をつけられて親しまれているものも多い。ここではあまり知られていない名木を紹介してみよう。正名の野本栄氏の屋敷内にある、県下第三位といわれる巨木である。枝張りが十六メートル余に広がり、優美な樹形が人目を引く。承応二年（一六五三）、野本家の繁栄を願ってここに移植されたものといわれる名木である。白鳥神社の大けやき（大和町平野）神社のやぶの中に自生しているくすの木である。やぶの中なのであまり目立たないのだが、平地でこれだけの大木は珍しい。青野の大笠松笠松の名にふさわしく高さのわりに枝が四方によく広がり、見事な枝ぶりのくろまつである。根本には青野城主松平義春の墓地である。この松にふれると家庭内に不和か病人が出るといわれ、だれも手をつけたものがない。近くによっても遠景をながめても実にすばらしい樹形の大松である。蓮華寺の大楠（西本郷町和志山）幹がまっすぐに伸び、精悍な大樹である。大昔この寺には「船つなぎのくすのき」のいわれを持つ大木があったというが、その二世ではなからうか。推定樹令は三〇〇年。

右 瓶井神社のたぶのき
左 正名のくろがねもち



六メートルもある大木である。土地の人々に楽しまれてきた名木の数々……それが時代の推移とともに忘れられかけている。今回選定された樹木はわずか百本である。しかし、これをきつかけに緑に対する関心が高まり、子どもからおとなまで、市民こそって緑を大切にしようになってほしいというのが選定にあたっての願いである。「緑はいのちの母」これらの木々を私たちの手で末永く守り育てていこう。そして、それらに次ぐ緑を私たちの手で一本でも育てるように努力していこう。（連尺小 矢田敏行）

かかった。校達員の家族も入ることを知り、つい「熱好きです」とうかつな返事。以来、五衛門風呂での修業と相成った。養護教諭が干してくれた蒲団にもぐる日は嬉しかった。みんなで付けた体臭も薄れていた。ふと目が醒め、窓からの放水。黄色の霜柱は竹箒でならしたが、「おい、校長手植の庭木が枯れたぞ。」の声にも、連帯感から来る気安さがあった。部活動のない冬の日は直は恐かった。押し売り、酔っぱらいが来た時の跳び出し方の算段。午前中は、まだ清掃やらストープの点火で気は紛れたが、午後の長かったこと。宿日直の交代まで後二十分、十分と時計の針を追いながら、果たして先生は来てくださるだろうかと気遣い、下駄箱の開く音を待ちわびた。

●つと
生徒たちが宿直室へ押しかけ、寝泊りしたのが昭和二、三十年の頃。つい子らの話に誘い込まれて青木川に捨て釣りを仕掛けに行つたこともあれば、家出少女の調停役に立たされ、無灯火の自転車で走り回つたこともあった。また、祭祀掃りの村人の訪問と濁酒の振舞いを受け、儲けるコツの長談議に相鎚を打つたもの、余り縁のない話であった。

宿直の夜に覚えたマジヤンと暮。そして、座蒲団から保健室の蒲団までかり集めての雑魚寝。宿直室は、人間交流のぬくもりの場でもあったのである。

辻村栄次・細井浩平・安藤幸夫・平川美也子先生のお話から

異郷の くらし

— 家族への便り —

松井幸彦

ビルマ

昨日は、嬉しいことを知りました。土曜日で半日なので旅に出ました。

日綿実業（日本商社）さんのお誘いでラングーン川河口まで三十分、自動車ののり、そこから約一時間半船にゆられ、シヤリムという小さな町に行き、約三十分トラックにゆられて山奥の一軒屋につきました。その主人は仙人のような人で不思議な念力を持っていると言われています。彼は念仏を唱えんと六つの小さな仏像が回転して、イエスの時は頭をコックリと動かし、ノーの時はいつこうに動きません。その仏像は木でできていてどこから見ても決してトリックはなく、同行した医学博士や農林局長が何度見ても不思議がっていました。

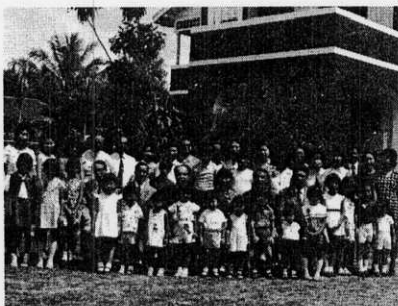
すべてよく当たり、彼はこの修業を十九歳の時から五十年以上しているそうです。その人から私がビルマにいる三年間、両親は健在であるということ、家族も大丈夫だということ、私が帰国した後、ますます栄えるということで嬉しくなってきました。

ビルマはお菓子は売ってませんから時々、お母さんがケーキを焼きますが、小麦粉が悪い（はじめから虫が入っていてくさい粉）からあまりおいしくありません。日本は何でもあつておいしくて本当によい国です。同じケーキでも日本の小麦粉でやくと大へんおいしいです。お米もそうです。ビルマは米の国ですが、日本でいうところの外米ですから、細長くてくさいです。ですから日本から飛行機で送ってもらった五キロの米は本当はつーぐんやラーちゃんか、おなかをこわした時、おかゆさんにして食べるつもりでしたが、お客様を招く時いつも使っています。

ビルマにいた日本人は、帰国すると、ごはんをおかずにして食べるとうえ言われます。
牛肉・豚肉・鶏肉は、目の前で切ってもらい、鶏は一羽ごと（約八百円）、牛肉はアンダーロース（約二匁）、豚肉も一ピース単位（約一・六匁）で買います。肉は安いですが、野菜は畑が少ないから日本よりむしろ高いです。魚は川魚が主で海の魚はほとんどないので食べませんが、フルーツはマンゴ、パイヤ、ドリアは年中出ていますが、南国特有の大味で強い臭気があるので慣れないと食べられません。他に、なし・ぶとうが出ていますが、とてもすっぱくて食べられません。

ところで先ほどまでホテルが飛びまわっていました。ビルマは日本の源氏ホテルと同じくらい大きくよく光る。至る所にホテルの飛びかう姿が見られ風流な所でもあります。
家の前の低地はバナナとヤシの畑、庭は子ども運動場になれるぐらい何十人いても遊べます。
すばらしい黄金のパコダ、美しいインヤレイの湖、牛や水牛が農家や道路を散歩している姿を思い浮かべてください。七十才程の日本人も数人来ておられます。一度みんなでラングーンへ来られることを切に希望します。
（附属岡崎小学校籍）

— ビルマ —



▲日本人学校入学式

▼ベビーナニー（子もり）



海外だより

日本人学校

違和感

三後勝弘

西ドイツ

外国における日本人学校のもつ問題はいろいろあると思いますが、当地西独の当校では、学習内容にはほとんど問題がありません。学校創立四年目、外地における日本人学校の在り方について少々考えさせられます。

日本の学校から異国の学校へ入学した

のんびりした 現地の学校

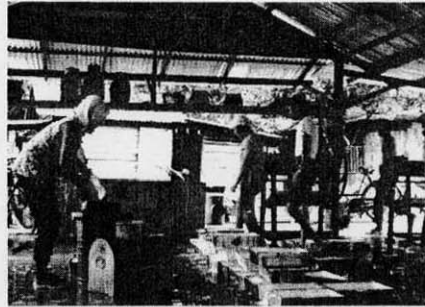
内藤 広光

マレーシア

マレーシアの学校は、「モーニング・スクール」といって、ほとんど午前の授業だけです。市街地では生徒数の多い学校は校舎の関係で二部制となり、午後の部も開かれています。

学校は朝七時半に始まり、午後一時には全員下校となり、ほとんどの生徒はスクールバスで帰宅します。それは、マレー人はマレー系、中国人は中国系、インド人はインド系と希望の学校へ自由に通学でき、日本でいう学区がないためです。中学（三年）・下級高校（二年）・上級高校（二年）の卒業時には厳しいテストがあり、これに合格しないと進級できません。テスト内容はイギリスのテストに準じており、公務員の場合はその成績で給料が違ってきます。しかし、一般の生徒はいたってのんびりしています。サラリーマンより商売の方が金になることを知っていますし、田舎へ行けばいくらでもフルーツは実り、飢餓感はありません。

— マレーシア —



▲ゴム工場



▲ベチャに乗って

午後まで続く日本人学校の授業を見てマレーシアの人々は目を丸くして驚いていますが、塾で忙しい日本の子どもたちと知ったら、いったいどんな顔をするのでしょうか。

次に私の学校の一父兄の手紙を紹介いたします。

クアラルンプール在留三年

（香山中学校籍）

私の家では、中学生と小学生ひとりずつ

▼アパートの庭で（右から2人目）



▼中二美術の授業



子どもたちは、昼は日本人学校、夜は家庭、休日は家族とドライブ、または、日本人の同級生同志で過ごすという生活。ところが一歩外へ出れば、ドイツ人と石を投げあつてけんかをする。多くの子どもたちは「ドイツ人は、いじわる、けち」といい、ドイツ人は「日本人は朝早くから夕方まで勉強させる。それは絶対によくない。」と断言します。

ドイツの小中学生は、午後一時三十分には完全に終わります。社会教育は進んでいて、各地域で多くのクラブがあり誰でも参加できます。しかし、日本人学校に通っている限り、授業時間の関係で参加できません。

今住んでいる外国の本当の姿を吸収すべき機会を少なくしていると思うと、何となくさみしい気がします。日本人が国際社会の中で脱落しないための協調性について考えさせられる毎日です。

（竜海中学校籍）

つを日本人学校でお世話になっていきます。ここマレーシアでは、日本の雑音から開放され、自分というものを見つめるのに、とてもよい環境であると思つています。しかしひとたび日本の現行の教育制度に目をむけますと、何かしら心の揺れ動くのをおさえきれません。学校の先生方も日本からいろいろとデーターをとりよせ、十分すぎる位のご指導をしてくださり、何の不満もありませんのに、日本

の友達から「〇〇塾に入りました。」とか「学校で何番になりました。」といった手紙をいただきますと、社会的な判断が学歴で決まる日本ですから、「我が家はこれでいいかしら。」と悩みがつきません。おちつきがないというのでしようか、せっかくの海外生活でありますのに、十分現地にとけこめない自分を、本当に恥ずかしく思います。

講演要旨

自然とのふれあい



名和秀雄

私はミッドナイト東海という深夜放送のディスクジョッキーを、四年間やってまいりました。先生方の中には、深夜放送など聞くな、と指導される方が多いようですが、私が深夜放送に係っていました頃、東京のある心理学者の所に行きまして、深夜放送を聞いていいかをたずねましたところ、よろしいとのことでした。それは、ラジオは鳴っている、勉強している本人はそれを聞いていない、つまり時計の音を気にする者がいないと同じだ、とのことでした。今後世の中はやかましくなる一方だから、少しぐらいい音で勉強がやれなくなるようでは困ると考えております。

さて自然を守る問題は昨今いろいろいわれておりますが、どうしたらよいか、なかなかいい解決法もございません。守らなかつた者に極刑を加えるのも現実的ではありません。また守りすぎるのも問題で、鵜が金魚やうなぎを食べてしまつたりしても、養殖業者は相手が天然記念物では、泣寝入りとなります。かもしかが植林した若木を食べてしまつても、保護論者は、山林持主の訴えに、耳をかそうとはしません。

自然のすばらしさがわかればこの両者の接点も見出せます。むやみやたらに保護論をふりかざすのではなく、また無神経な破壊もいけません。最近では学校で昆虫をとらせないようです。そのわけは、昆虫がかわいいのだと特に女の先生がいうようですね。また母親も両極端で、昆虫をとつて学校へ持つていって、何とか点をかせごうというのと、とつてはかわいそうというのしかありません。この両者の中間がないというのは、大変こわいことです。ですから、このごろ

の子供は昆虫がとれないようにです。昆虫とのかけ引きを知りません。またバツタがいつとれるのかも知りません。

子供の知能の発達には、手の動きが大きく影響しますが、このごろでは、中学生でも鉛筆がけずれない者が珍しくありません。電気鉛筆けずりが、いかに子供の知能の発達をさまたげているかわかりません。また女の先生は、虫をつかまえてはかわいそうですよ。虫のお母さんが会いたがつて泣いているでしょう、とすぐいいます。しかし虫のお母さんなど、去年死んでしまつて、今なんかいやしません。こういうばかなことを教えるは困ります。

昔はとんぼの腹にわらをさして飛ばしたり、かえるの尻にむきわらをさして、プーとふくらめて遊んだんです。バツタをとるには、バツタが着地した瞬間にとるんですが、今の子供はこのことを知りません。子供は面白いから虫をとるのです。これは人間の本能で、人類発生以来百万年の本能が、そう簡単には消えません。これをやらせないから、子供がだんだん小さく、ばかになっていくのです。そして、精神障害児が非常に増加しています。自然との遊びがないためでしょう。

これは、さみしいことです。昆虫とか、植物にさわっていない子供は、自然に関心を持ちません。この子供達は、自然破壊が行われても、何とも感じないわけです。

それから学校で花壇など作るはいいですけど、花壇コンクリールなど意味ないと思います。花を植えるのはいいですよ。しかしちぎつていけない花をどうして植えるのですか。学校の中に雑草を生やして、バツタをいっぱい飛ばせた方が、よほど子供が喜ぶですよ。花壇を作るなら子供が踏み込んでいいものにするべきです。

かがみ

4月一わかれ

原田 みつ子

教員生活5年目。楽しい日々を送っているが、時には胸をしめつけられるようなこともある。1年間慣れ親しんだ子供たちと別れて、新しい学級の担任に。

— 4月の日記より —

どうして逃げるの、ともみちゃん。いつも寂しそうに遠くから私を見ているともみちゃん。

私が寄つて行くと、さっと身をかわして逃げるともみちゃん。

私が担任の時は、あんなに仲よしだったじゃない。

いつもおどかしっこして、すもうして、おんぶして……。

そんなふうにして私を見ている、先生まで悲しくなるじゃない。

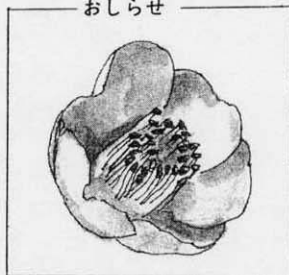
ごめんね、もう担任じゃなくなつて。

(秦梨小)

昔はとんぼの腹にわらをさして飛ばしたり、かえるの尻にむきわらをさして、プーとふくらめて遊んだんです。バツタをとるには、バツタが着地した瞬間にとるんですが、今の子供はこのことを知りません。子供は面白いから虫をとるのです。これは人間の本能で、人類発生以来百万年の本能が、そう簡単には消えません。これをやらせないから、子供がだんだん小さく、ばかになっていくのです。そして、精神障害児が非常に増加しています。自然との遊びがないためでしょう。

かつてはガキ大将がいました。小学校上級から、中学校にかけてくらいですが、川へ遊びに行つたら、こは深いぞ、とか危いぞとかちゃんと知つていて、家来のチビ共にも教えたものです。今こいつつたものが見られない

○時 昭和五十年十月十七日
○所 香山中学校



カンツバキ

県教育研究論文に十点入賞

高まる研究意欲を反映して

県教委、県教育振興会が主催して募集していた教育研究論文の入賞者が決まった。本年度の入賞二十一点中市内教職員ものが半数近い十点を占める好成績で、改めて岡崎教育界の水準

〔表紙〕橋本増治郎(一八七五―一九四四)額田郡尋常小学岡崎学校卒業後上京。明治四十四年我が国最初の自動車製造工場快進社を設立し、大正二年には国産小型自動車第一号「ダット」を完成させた。以後も改良小型乗用車「ダットサン」の製作に成功するなど、一生を自動車工業の発展に尽くした。

〔寄贈刊行物・資料等〕
◇クラブの声 美川中学校
クラブに人間関係の深まりを求めた生徒・教師の真率な声。
◇それでも俺はやる
岡崎女子短大長本多由三郎
八十年波瀾の人生航路の表裏を痛快に綴った学長の自叙伝。

の高さと、教師の強い研究意欲が話題となっている。入賞者は次のとおり。(敬称略)
【最優秀賞】▼楽しい主体的体力づくり(基礎づくり)をふまえて
▼甲山中保健体育部【優秀賞】▼読書活動を生かした学級づくり
▼梶尾長夫(岩津中)▼資料の読みとり能力と認識の関係
▼近藤公一、平野有行(羽根小)▼自由読書からの出発
▼矢作西小現職教育部【佳作】▼音楽・アンサンブルの中に育つ子供たち
▼子供が動かす授業を求めて
▼杉本安(男川小)▼国語・生活を綴る力を育てる作文指導
▼千田水城(東海中)▼体育・活動力のあるからだづくりをめざして
▼ホール運動の指導
▼岩津小現職教育部▼休養着へ

の自ら学ぶ―みんなのあしあと第二集―
と第二集― 広幡小学校
「ひとり学習」をめざす子供、父母、教師みんなの勉強の記録。
◇わかる学習の深化・拡充
電海中学校
十年來の「わかる学習」を教育課程全般をふまえて再検討。

パジャマ製作」を題材としての基礎技術と応用
▼葵中・城北中矢作中各技術家庭女子部会共同研究
▼数学二年「図形の変換」の実践研究
▼電海中数学部会▼基礎をふまえた音楽指導
▼六ツ美北部小現職教育部

50年度西三中学校新人陸上記録会(11月9日・県岡崎総合運動場、関係分のみ三位まで)
【男子】▼百①牧能成(葵)▼二百②牧能成(葵)▼八百①鳴井郁夫(葵)▼二千②武居美佐夫(甲山)▼八百①葵中▼走幅跳①佐藤見一(葵)②奥村知尋(附属)▼走高跳②土岩建二(美川)③柏木敦(甲山)▼砲丸投②宮嶋幸男(香山)③太田勝己(矢作)

400R①城北②甲山③葵▼走幅跳①飯田絹子(城北)②岡崎恵美子(岩津)③蜂須賀優子(甲山)▼走高跳②山本初美(東海)②酒井俊子(矢作)
【女子】▼百①辻村直美(城北)②杉山好子(甲山)③榎原祥子(甲山)▼二百②蜂須賀優子(甲山)▼八百①飯田絹子(城北)②竹内晶子(葵)▼

400R①城北②甲山③葵▼走幅跳①飯田絹子(城北)②岡崎恵美子(岩津)③蜂須賀優子(甲山)▼走高跳②山本初美(東海)②酒井俊子(矢作)
【女子】▼百①辻村直美(城北)②杉山好子(甲山)③榎原祥子(甲山)▼二百②蜂須賀優子(甲山)▼八百①飯田絹子(城北)②竹内晶子(葵)▼

50年度健康優良児童・生徒 (小6年生、中3年生)

区分	小中別	男子		女子	
		男	子	女	子
岡崎一	小	羽根小	延孝	山中小	直枝
	中	附属中	滝雄一郎	城北中	弓子
準岡崎一	小	福岡小	英一	連尺小	由紀
		山中小	俊哉	広幡小	美晴
	中	電海中	善久	南中	智恵子
		矢作中	拓也	岩津中	洋子

50年度よい歯の児童・生徒 (小6年生、中3年生)

区分	小中別	男子		女子	
		男	子	女	子
岡崎一	小	岡崎小	剛史	矢作西小	晴美
	中	矢作中	寿晴	南中	さゆり
準岡崎一	小	美小 六ツ部	孝司	美合小	由美
		電谷小	泉	山中小	素子
	中	附属中	智靖	城北中	知恵子
		岩津中	和彦	美川中	百合子

※健康優良、よい歯の児童・生徒とも市学校保健大会で表彰

橋道恵(甲山)③金原圭子(葵)④宮石春江(甲山)⑤山脇かおり(葵)⑥兵藤結花(福岡)
【中学校男子】二千①成瀬滋夫(甲山)②安西政幸(南)③武居美佐夫(甲山)④中根勝(常磐)⑤荻野忠弘(葵)⑥野村昌己(常磐)
【中学校女子】▼千①佐藤幹男(六南)②平井敏文(六南)③脇田貴司(矢東)④近藤聖一(根石)⑤平光彦(六北)⑥細川裕介(六南)【中学校女子】▼千①米津三津枝(葵)②高

12月以後の婦人大学講座
▼12月10日「女のしあわせ」愛知婦人少年室長築山千鶴子氏▼1月10日「くらしと物価」中日新聞論説委員鈴木一夫氏▼1月23日「趣味と女性」愛教大議長井上友治氏(会場：婦人会館)

道標「すてんしよ」

勝鬘寺東の道路沿いに、明治三十二年建立の道標がある。向かって左面に「右をかざきすてんしよ、左のばた」と彫られている。明治二十一年に開設された国鉄岡崎駅は当初「すてんしよ」(ステーション)と言われた。以後「てんしよば」・「しよせんえき」・そして戦後の「こくてつえき」と呼び名も変わっている。



所在地 岡崎市針崎町朱印地

日本



日本人の言語表現	金田一春彦	平 将門	北山 茂夫
講談社現代新書 50・10	¥ 三九〇	朝日新聞社	50・9
読書の学	吉川幸次郎	ぼくたちの学校革命	久保島信保
筑摩書房	¥ 七〇〇	中公新書	50・9
叛骨の土道	奈良本辰也	若き日の芭蕉	岸 宏子
中央公論社	¥ 八八〇	中日新聞社	50・9
英語教育大論争	平泉・渡部	語源のたのしみ(一)	岩淵悦太郎
文芸春秋	¥ 九〇〇	毎日新聞社	50・10
学習構造学習の指導	村上 芳夫	おかあちゃんほうるさい	吉岡たすく
明治図書	50・9	実業の日本社	50・7
	¥ 三〇〇		¥ 五八〇

寸言

▼今年も終わる。あわただしく、しかし惜年の情の深いこのごろ。
正月の花桶にある師走かな

〈蹠躅〉

▼西ドイツ・ビルマ・マレーシアと日本人学校で活躍する三人の先生。地球はますます狭くなる。

▼もしも自分のためにかがやくなら、燈台は船を導くことができる。

・カット
山本 光昭 (葵中)

12月の行事

日	曜	行	事	日	曜	行	事
1	月	一日消防署員(市役所)	市教育研究論文締切り	17	水	養護教員研修会(働く婦人会館)	定例教育委員会 学校開放事業事務長会(市役所)
2	火	六名小研究発表会・市学校保健大会(甲山中)		18	木		
3	水	教頭教務研修会(甲山中)		19	金	文化財保護審議会(市役所)	
4	木			20	土	事務職員定例会(西三)	
5	金	保健主事研修会(額田中参観)	就学指導説明会ならびに講演会 (連尺小) 岡崎文化協会創立総会(岡崎中央支店)	21	日		
6	土			22	月		
7	日	交通遺児の激励及び慰安会(岡崎グランドホテル)		23	火		
8	月			24	水	第二学期終業式	
9	火	男川小研究発表会		25	木	冬季研修会(27日まで野外教育センター)	県中学校長距離競走大会(県青少年公園)
10	水	定例校長会・西三養教研究協議会(吉良公民館)		26	金	子ども会ジュニアリーダー研修会(山の家)	
11	木			27	土	官庁ご用納め	
12	金	市PTA文化展(14日まで市美術館)		28	日		
13	土			29	月		
14	日			30	火		
15	月			31	水		
16	火	六ッ美地区道徳研究指導会					